

性的マイノリティの子ども達が

学校の中で抱える困難、課題（中学校）

表の左側は、大阪市内の学校に通学していたLGBT当事者の声です

● どんな中学校生活だった？

💡 対応のヒント

- 制服もあり、何事も男女で分かれていて窮屈だった
- だんだん男女分かれて遊ぶようになって、周りに合わせるのが嫌だった
- 「おとおおな」とからかわれた
- 修学旅行がなかった
- トイレに入りづかった
- 自分が「おかま」と呼ばれる大人になることを自覚することが恐怖だった
- 同性を好きになってすごく悩んだ
- 学校に安らげる場所がなかった
- 友達と好きな人の話をするのが辛くてうそをついていた

トランスジェンダーの生徒が不登校になる主な理由に制服があげられています。ジャージの着用を認めたり、パンツスタイルを選べたりする学校も増えてきています。

校則を守らずスカートの下にズボン履いている生徒がいたら、注意をする前に理由を聞いてみるのもいいかもしれません。校則を守ることも大事ですが、生徒の気持ちに配慮できるよう心がけましょう。

● 先生からの対応や、授業、部活などで困った、嫌だったことは？

💡 対応のヒント

- 「おかま」という言葉を冗談で使われることが苦痛だった
- 「女(男)らしくしろ」と言われること
- 親の前で「ホモの道に進むのは勝手」と言われた
- 「ゲイは嫌いだ」と言っている先生がいた
- 男子同士で仲良くしていたら、先生から「そんなことをしたらホモになるぞ」と言われた

生徒たちは先生の言葉をしっかり聞いています。子ども同士より、むしろ大人が使う言葉に傷つくことが多いという調査結果もあります。もしうっかり発言してしまった時は、「ごめん、今のは先生の言い方が悪かった」とすかさず訂正しましょう。

- 体育やプールの授業が嫌で、プールはすべて欠席していた

特定の生徒に許可するのではなく、全員にラッシュガードを許可するなど、当事者の生徒がカミングアウトしなくても居心地よく過ごせる工夫をしましょう。

- 保健の授業で同性愛はタブー視されている雰囲気があった

「平均」「一般」について話す必要がある一方で、LGBTなどのマイノリティに配慮のある授業を心がけましょう。授業の中で、「思春期に誰かを好きになるかもしれないし、ならないかもしれない」という言い方に変えましょう。

● 先生からの対応、授業、部活などでよかった、助かったことは？

- 同性が好きだと先生に打ち明けたが驚かれなかったこと

打ち明けられるということは、信頼の証です。その気持ちをまずは精一杯受け止め、表現しましょう。「教えてくれてありがとう」の一言が、次の相談のきっかけにつながります。

※出展：日高康晴2000,ゲイ・バイセクシュアル男性の異性愛者的役割葛藤と精神的健康に関する研究,思春期学18巻3号,264-272,日本思春期学会

📖 おすすめ図書

ボクの彼はどこにいる？ 石川大我(著)

レズビアン結婚生活 東小雪、増原裕子(著)

NHK「ハートをつなごう」LGBT BOOK

中学生は、人と違うことに敏感な年頃。具体的な悩みがなくても、その原因がわからずイライラしているのかも…。まずは生徒に自分の知りたいことを調べる方法を伝えてみよう。

!!! 環境づくりのヒント！

- ☐ LGBTの掲示物をはってみよう
- ☐ 朝礼や始業式でLGBTについて話してみよう
- ☐ LGBTの本を紹介してみよう

IMPORTANT

このハンドブック作成のためにメッセージを募集したところ、12名からの応募がありました。そのうち11名の「先生からの対応、授業、部活について、よかったことや助かった事はなかった」という声は、中学校生活がLGBTの生徒にとって厳しい環境であることを表しているのかもしれません。

Q 研究調査 | 自殺を考えたことがある・自殺未遂をしたことがある



日高庸晴・市川誠一・木村博和 「厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業 ゲイ・バイセクシュアル男性の健康レポート 2」2007年
<http://www.j-msm.com/report/report02/index.html>